

## ◆新技術定着試験事業

# アオリイカ産卵礁設置試験

山田真之

### 1. 目的

沖縄本島西部に浮かぶ渡名喜島は漁業の盛んな島で、アカマチなどの底魚一本釣りを主体に漁業を行い那覇県漁連市場に出荷を行っている。またこの島の周囲ではアオリイカが多く漁獲されているが、そのほとんどは島内消費である。

平成14年からアオリイカの資源を維持しながら漁獲を続けていくために、渡名喜村漁協の協力を得ながら水産業改良普及事業としてイカ柴（人工産卵床）の設置及び採卵の試験を行ってきた。平成15年からは粕谷製網の協力を得てアオリイカ人工産卵礁の試験設置を行っている。昨年度までの結果を踏まえ設置場所を再検討の上、継続して調査を行う。

### 2. 方法

昨年度まで渡名喜島東側の礁湖（イノー）内にイカ柴2連と粕谷式アオリイカ産卵礁を設置してきたが、2年間かけて観察してきたものの産卵は確認されなかった。アオリイカには3型あり、シロイカ型が通常礁湖内の藻場で産卵をするが、渡名喜島で通常漁獲されるアオリイカがアカイカ型で有ることが夏の調査でわかったことから、産卵礁の設置水深をより深いところに設置することとした。鹿児島県の種子島では水深16～24mの地点で3～7月に産卵が確認されていることから、本試験は水深条件を変えて設置することとした。

設置した場所はアオリイカが良く漁獲される島の西側から南側にかけてで、5カ所に産卵礁を設置した（図1）。使用した産卵礁はオオシマジリの2カ所とピガマーでは粕谷式イカ産卵床（写真1）とカラヤン株式会社製のイカ産卵礁（写真2）を各1個ずつ、ユブングチ内・外ではカラヤン株式会社製のイカ産卵礁を各1個

ずつ設置した。アオリイカの好漁場と設置場所が重なるため、ブイ等は着けず土嚢で海底に固定した。

図1. 産卵礁設置位置



写真1. 粕谷式イカ産卵礁



写真2. カラヤン株式会社イカ産卵礁

産卵が確認された場合卵塊を壊さないように漁港に持ち帰り、漁港内に設置したもじ網内で孵化をさせ、中間育成の上放流を行う。

### 3. 結果

設置日時は島の南側2カ所が（オオシマジリ）が11月15日、西側3カ所（ユブングチ外・内、ピガマー）が12月8日である。

調査は潜水による目視調査で2月25日と5月24日に行った。

産卵礁を全部設置終えたのが12月8日であるが、それから5月24日の調査までの間にアオリイカの産卵（卵塊もしくは卵の殻）は確認されていない。

カラヤン式、粕谷式とも徐々に付着物が着いてきて天然の岩に近い状態になっている（写真3、写真4）。



写真3. カラヤン式設置後22日目



写真4. カラヤン式設置後190日目

### 4. 考察

種子島では以前からイカ柴を設置していたため産卵場所・時期というのがはっきりしていた。渡名喜島では以前は島の東側の礁湖でアオリイカやコブシメ（クブシミ）の卵が見られたらしいが道路工事等の影響からか近年では見られなくなっている。現在潜水漁をする人がほとんどおらず、またアカイカ型の産卵適地自体はつきりしていないことも問題となっている。

現段階で水深24mのところまで設置しているが、これ以上深くなると調査方法そのものの見直しも必要となってくる。今後夏過ぎまで継続して観察を続け、産卵が確認できなければブイを着けてより深い水深に産卵礁を設置するか、水産試験場に協力を仰ぎROV等での調査を検討したい。